

経ヶ峰 安濃城 津緤子

安濃町を歩く・調べる・発信する

津高校図書館探究講座3 ウィキペディアタウン@津市安濃町

ウィキペディア情報をみんなで編集しよう ウィキペディアでまちを世界に発信しよう

地域にある文化財や観光名所などの情報を参加者が協働して収集しウィキペディアサイトへ執筆・掲載するイベントです。
街歩き(撮影)・資料の探索と調査・最後に執筆という流れを1日で行います。日本では2013年から開催されはじめ、2017年11月末時点で実施回数は130回を超えています。県内の高校では津高校が初開催です。

安濃町
×
WIKIPEDIA
The Free Encyclopedia
×
津高校

なぜいま開催するのか？

津高校では、学生の探究活動・地域活性化を考える活動に取り組んでいます。より良い探究活動のため、本やウェブ情報の活用方法や学び、地域内で活動する経験となるウィキペディアタウンを様々な主体と連携して開催します。



▲ウィキペディアロゴマーク

こんなテーマに関心のある生徒を求む！
地域活性化／歴史文化／情報発信／執筆撮影／安濃町

開催日時:2021年(令和3)
7月22日

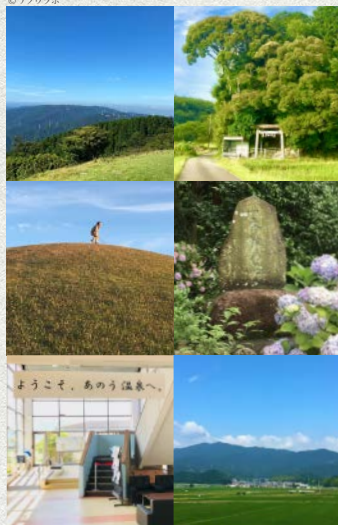
安濃町を
発信しよう

当日午後
見学OK!

9:00~
17:00

新型コロナウイルス感染症の発生状況により開催内容を変更する場合があります

©アノウラゴ



場所 津市安濃中公民館

協力(五十音順)
浅生悦生さん(三重郷土会常任理事)
日下九八さん(ウィキペディア編集者)
皇學館大学
津市教育委員会
三重県総合博物館
三重県立図書館
森谷哲也さん(アノウラゴ代表)
スケジュール(予定)
午前:講義/まち歩き(撮影)
午後:調査/ウィキペディア執筆
(作業の様子を見学できます)

実際に地域を巡ります!
安濃町の魅力をWikipediaに!
I ♥ ANOU



▲アノウギン

デザイン協力:BONOBOPJAPAN

主催:三重県立津高等学校

2020
7月

なぜウィキペディアタウンなのか

1:津高生に地域を歩く経験をして欲しい!

「地域活性化」がテーマの放課後ゼミなどに積極果敢に挑む津高生に、地域を歩き地域の人の話を聞く経験をして欲しい。

2:津高生に資料の扱い方と情報発信の責任の重さを伝えたい!

探究を進める津高生に、資料の比較検討を通じ、信頼性の高い情報を発信する経験をして欲しい。

3:何より、これらの体験の面白さを知って欲しい!

「地域を歩き、調べ、議論し、書く」ウィキペディアタウンの活動はまさにピッタリと思いました。

8月

令和2年度 全国図書館大会三重大会を契機とした 図書館振興事業にかかる助成金事業に応募・当選

10月
29日

津高図書館文化講演会「まちの宝の磨き方。」開催 講演会内でウィキペディアタウン@津市安濃町の開催予告



12月
8日

事前レク①【安濃町って、こんなにすごい!】 講師:浅生悦生さん(三重県郷土会常任理事)



安濃町のすごいところ5つを、わかりやすくお話いただきました。

1:経ヶ峰と長谷山 2:古代遺跡の宝庫 3:県下最大級の中世城跡
安濃城 4:将軍家への献上の津綴子 5:抜群の孝女登勢

お話の内容は、浅生さんの著作『知られざる郷土史 津とその周辺』
(2017.6)、『津綴子 歴史に見る郷土の技』(2010.3)等に記載しています。

三重県立図書館や津市立図書館で読むことができます。

◀浅生悦生さん

ウィキペディア編集項目決定

「執筆したい項目」をメンバーにアンケートし「津綴子」「安濃城」「経ヶ峰」の3つに決定しました。

2021

1月
12日

緊急事態宣言再発出により、2/7の開催延期を決定
検討の末、次年度6月20日開催に向けて再調整

5月

Covid-19 感染再拡大により、6/20 の開催延期を決定

5月
26日

新入生を加えた新メンバーでチーム結成
ウィキペディアンと顔合わせ

6月
23～
25日

事前学習①【ウィキペディアと著作権の話】
講師：日下九八さん(ウィキペディア編集者＝ウィキペディアン)
井戸本(学校司書)

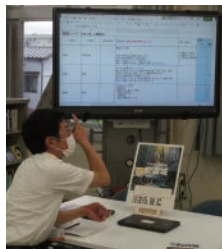


ウィキペディアは百科事典。すでに判明していることをわかりやすく書くのが大事。知られざる真実や世紀の大発見を最初を書く場所じゃない。探せば本や論文に載っているはずだよね。だから記事には「何を見て書いたか」という出典を書くこと。誰でも書くことができるから、他の人が内容を検証できる「検証可能性」を大事にしています。本に書かれていることを書いて、どの本に書かれているのかをあわせて書けば、誰でもその本で検証できます。トップページの「新しい記事」にあるような文章が書ければ、おとなの文章力と調査力があると言えるでしょう。高校生時代にその力を身に付けておくのは良いことです。

◀事前学習①の様子

7月
9日

事前学習②【三重県総合博物館の学芸員・職員から講評】
講師：太田光俊さん・寺村善樹さん



みなさんが参考になっている『安濃町史』などは、元々はその当時に書かれた「一次史料」と呼ばれる資料を読んで作られています。私たち研究者は一次史料を読みます。一次史料を読み間違えている現代の資料もあるからです。しかし、その当時に書かれた資料だからといって正確とは限りません。複数の資料の比較検討が大事ですが、地域について比較できるほどの資料はとても少ないのが現状です。ですので、たとえ一つの資料であっても、書かれていることは本当かな?と思いながら読む姿勢も大事です。これは、本を読む場合も同様です。

◀事前学習②の様子

ウィキペディアタウン@津市安濃町、いよいよ開催へ!

2021
7月
22日
AM
9:00

ウィキペディアタウン@津市安濃町開催 津市 安濃総合支所前に集合 オリエンテーション

安濃城見学

▼安濃城



三重県総合博物館見学

▼三重県総合博物館



▼安濃郷土資料館



安濃郷土資料館へ

赤地蔵・常明寺跡へ

講師：田中秀和さん（津市教育委員会事務局）



赤地蔵／ここには八百年生きたという八百比丘尼の伝説があり、常明寺は亡くなった場所と言われています。八百比丘尼は福井県の小浜に旅に出たという伝説があります。この赤地蔵のように、小浜にも地蔵を塗る風習があり、化粧地蔵（けわいじぞう）と言います。

常明寺／本尊と言われている大日如来像は平安時代の作です。以前ここで平安時代から鎌倉時代に作られた茶碗を発見しました。発掘した瓦を調べると江戸時代のものでわかりました。これらのことから、最初に建てられたのは平安時代で、江戸時代まで存在したと考えられます。

◀田中秀和さん

昼食

PM
1:40

調査・執筆開始



安濃中公民館に戻り、2チームはアノウラボへ、1チームは公民館内の会議室へ移動。県立図書館や市立図書館から借りた資料を読み、無線LANでネットに繋がったPCに記事内容を執筆していきます。ウィキペディアンのみなさんは、オンラインで執筆内容を確認しながらサポートしてもらいました。

◀調査・執筆の様子

PM
5:20

時間切れ!のため終了後も活動継続

10月
27日

ついにウィキペディアに公開!

▼津綴子



▼安濃城



▼経ヶ峰



まちの言葉はみんなの言葉

岡野 裕行

図書館情報学研究者／皇學館大学准教授

■私たちの暮らすまちをみんなと一緒に歩く。目的をもってみんなと歩く。目的のものを自分たちの目で確かめに行く。目的地にたどり着くまで自分たちの足を一步步つ前に進めていく。たどり着いたその先でまちの文化を感じ取る。私たちのまちの文化に触れてみる。その場所で目にしたものを写真に撮って記録してみる。現在の私たちの暮らしにつながる歴史の重みを肌で感じ取ってみる。■私たちの暮らしを形づくっているこのまちの文化は、何世代にもわたって現在まで受け継がれてきたものだ。私たちが生まれてくる前に、このまちに暮らしていた誰かさんが遺したものだ。その人が生きていた時代が過去にはあったのだ。誰かさんが遺したその一点ものがまちの文化の痕跡になっている。「その痕跡はいったい何なのだろうか」という疑問がわいてくる。痕跡が私たちに問いかける。■その痕跡は現在に生きる私たちみんなのものであり、そしてそれは未来に生きる誰かさんのものでもある。まちのなかに遺された誰かさんの小さな痕跡を眺めてみる。自分の手で触れてみる。そこに息づかいを感じてみる。その当時には当たり前だったあらゆるものが、今に生きる私たちにはどれも新鮮なものに見えてくる。そして私たちは過去から受け取ったものを未来に伝えようと試みる。■文化(カルチャー)とは「耕す」を意味するラテン語に由来する。まちの文化は私たちの暮らしているこの土地の記憶に結びついている。私たちはどういう言葉でまちの文化の痕跡を説明できるだろうか。図書館の本を何度も何度も手でめくり、ページを行ったり来たりしながら調べ上げた事実をまとめてみる。みんなの手と足と頭をつかって、何度も何度も繰り返し考えて悩んで相談しあって書いてみる。そうして私たちの文化を説明するための言葉を新しくひねり出してみる。■まちの文化の痕跡は私たちにそれを言葉にすることを促している。痕跡は私たちに「まちの文化を言葉にしてみて」と問いかけてくる。私たちはその問いかけに応えるために歩いて調べる。調べた成果を丁寧に言葉にしていく。それは私たちみんなの言葉になっていく。





参加してみて▶事前学習のとき様々な資料があって読み解くのが大変でした。三重県総合博物館で県指定文化財の津綴子肩衣を触らせてもらって嬉しかったです。透けて見えるのがわかる写真を撮ったのでそこを見てもらえると嬉しいです。あまり知られていない津綴子をよく知ることができました。山登りが意外としんどかった…けど楽しかったです。記事の不完全なところを指摘・修正してくれた方々に感謝です。



【メンバー】

岡野 日向子
足立 萌恵
西村 瑠璃
山村 朋
中村 日南

▼Wikipedia



ウィキペディアン 漱石の猫さんから一言



津綴子は元々の記事があり、先達を気遣いながらの編集は難しかったと思いますが、題材をしっかり分析・整理し、予備知識が無い読者にも易しい百科事典らしく、よくまとめられました。特に写真は特徴が解りやすく、題材を理解した皆さんらしい優れた作品であると思います。共同編集では、私の微修正にすかさず反応して自分達の文章に反映させる柔軟な思考がみえ、一緒に編集していてとても楽しかったです。ありがとうございました。

いざ安濃城へ!



頂上到着



案内看板
も撮影



田中さん
の説明
を聞く

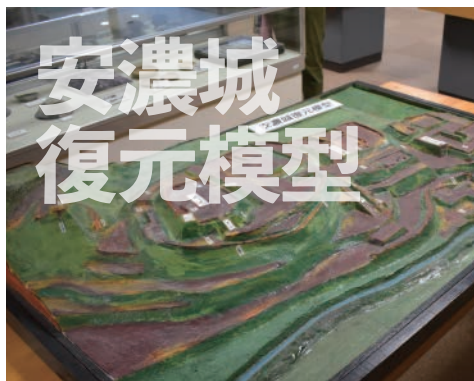


田んぼから望む
安濃城全景



田中さん
の説明





安濃城 復元模型



いざ執筆!



資料を 読み込む



ネットも活用

参加してみて▶資料を読み解くのが難しくて、特に阿由多神社に関する情報が少なかったです。

参考文献を読んで得られる情報も多かったけど現地に行くと自分の体で感じる事が多く、ガイドしてもらった田中さんの話も加えて書くことができ、現地に行くのが一番と思いました。

安濃城の大きさを感じることができました。夏なので虫が多すぎましたが、その体験も良い思い出です。



【メンバー】

足立 彩恵

星野 伶

林田 智輝

▼Wikipedia

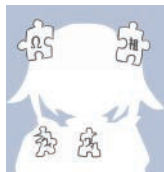


ウィキペディアン 日下九八さんから一言

おそらく節ごとに分担しての調査執筆だと思います

が、扱う話題のバランスも内容の深さもちょうどいい感じ。ではここで「広報 つ!」の連載「歴史散歩」(平成29年9月16日号 ※)を見てみましょう。だいたい同じ水準と言ってもいいレベルではないでしょうか。地元とはいえ専門家ではなく、津市最大の平山城であり県や市の観光名所でありながら、資料が探しやすいとは言えない題材でも、ここまで書けた自分を褒めてやってください。

※津市HP内(広報津>PDF版>平成29年>平成29年9月16日号>15ページ)で確認できます



遠くには海が

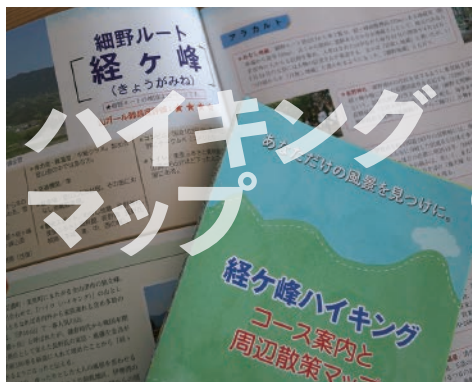
登山口から出発

常明寺跡
の石段

赤地藏

いざ執筆!

井戸には
今でも水が



みんなで分担 して作業

オンラインで確認作業



国土地理院地図も確認

参加してみて▶経ヶ峰の名前の由来や校歌の紹介、周辺情報も書いたのが記事の特徴です。

文章を丸写ししてはいけないので、書かれていることを自分の言葉で書かないといけないのが難しくて楽しかったです。

経ヶ峰が思ったより「山」で大変でしたが、現地に行くことが大事だと感じましたし、楽しかったです。



【メンバー】

辻 彩佳

手平 奈津実

藤原 珠菜

▼Wikipedia



ウィキペディアン かんたさんから一言



周辺地域の方であれば誰もが知っていながらWikipediaに記事がなかった「経ヶ峰」。

作成しがいいのある題材ではありますが、白紙の状態から書くべき内容を探していく作業は大変だったと思います。山岳記事として必ず書くべき内容をまとめつつ、経ヶ峰に特化した観点の内容もバランスよく折り込まれており、複数人で意見を出し合って一記事を編集する利点が発揮されている記事だと思います。



ウィキペディアタウン@津市安濃町 活動記録冊子

発行年月日 | 2021年12月1日

発行者名 | 三重県立津高等学校図書館

発行者住所 | 三重県津市新町3丁目1-1

今、あらためて最初にした企画書の日付を見ると、令和2(2020)年9月15日となっています。1年以上が経過し、やっと記録集をまとめることができました。

新型コロナウイルス感染症により、日程の延期や講師の方々の来県不可など、想定していなかったことが多々ありました。その中でも変わらずご協力いただいた関係者の皆さま、なにより度重なる計画変更の中でも積極的に活動してくれた津高生の皆さんに感謝申し上げます。

【参加者】

(生徒) 足立彩恵／足立萌恵／岡野日向子／辻彩佳／手平奈津実／中村日南／西村瑠璃／林田智輝／藤原珠菜／星野怜／山村朋 (教職員) 豊田貴之／深澤健吾／藤田裕之／井戸本吉紀

【協力(個人名)】

浅生悦生／Asturio Cantabrio／太田光俊／岡野裕行／日下九八／熊崎司／漱石の猫／田中秀和／寺村善樹／津村善博／中川清裕／松尾篤／森谷哲也／安宮勝之／山口理絵 (敬称略)

【協力(団体名)】

アノウラボ／皇學館大学附属図書館／サンヒルズ安濃(津市安濃図書館)／津市一志図書館／津市津図書館／津市教育委員会安濃教育事務所／津市教育委員会事務局生涯学習課／三重県総合博物館／三重県図書館協会／三重県立図書館

この活動記録冊子は、三重県図書館協会「令和2年度 全国図書館大会三重大会を契機とした図書館振興事業にかかる助成金」事業により作成されました。(冊子デザイン | アノウラボ <https://www.anoulabo.com/>)